

2016.7.5  
読者(1)

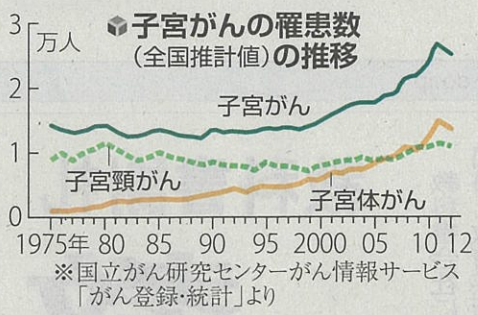
子宮がんは、主にウイルス感染が原因で発症する「子宮頸がん」と、一部の女性ホルモンが関係する「子宮体がん」の総称で、いずれも患者は増加傾向にあります。早い段階で治療すれば完治する可能性は高く、妊娠できる可能性を残せるかどうかを選択肢になる場合があります。

なぜ起きるの？



子宮頸がんは、膣から子宮につながる子宮頸部にできます。性交渉で感染するヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が主な原因と考えられています。感染してもウイルスは通常、自然に排除されますが、感染した人の1000人に1、2人がまれにがんを発症するとされます。20〜30歳の若い世代で発症率が急上昇するのが特徴です。

子宮体がんは「子宮内膜がん」とも呼ばれ、子宮の内膜に発生します。女性ホルモンの一つであるエストロゲンの



# 頸部・内膜とも発症増加

### 子宮がん

#### 子宮頸がん

〈注意すること〉

- 20〜30歳代で増える
- 2年に1度は検診を
- 発がん性ヒトパピローマウイルス(HPV)感染

初期症状 ほとんどなし

#### 子宮体がん

〈注意すること〉

- 50代で肥満体形の人に多い
- 不正出血があればすぐに診察を
- 肥満、高血圧、糖尿病
- 出産の経験がない、少ない
- エストロゲン製剤の長期使用など

初期症状 不正出血

いずれも増加傾向

取材: 沢本 輝, デザイン: 梅田 幸代

## 早期発見で妊娠の可能性も

増加が大きな原因とされ、肥満や糖尿病、出産をしていないことなどが発症リスクを上げます。閉経を迎える40歳代後半から増加し、50〜60歳代で発症のピークを迎えます。



どう治すの？

どんな症状？



子宮頸がんは初期症状がほとんどありません。ただ、子宮頸部に異常な形をした細胞が現れる「異形成」を経て、数年から十数年かけてがんになるので、検診で早期発見することが出来ます。

子宮体がんは、閉経後の不正出血が特徴です。「子宮がん検診」は、子宮頸がんの検診を指すので、一般のがん検診では見逃される可能性があります。注意が必要です。

治療は手術が中心で、手術後に放射線治療や抗がん剤を組み合わせることもあります。

手術では、早期ならば子宮頸部の一部だけを切除し、妊娠する機能を残すことが可能です。膣の一部を含めて子宮を切除する場合もあります。子宮の周りには排尿に関わる神経があるため、手術後には排尿障害が残る場合があります。排尿の神経を残す手術法もあります。

手術も先進医療として行われています。

早い段階で手術した場合の5年生存率は90%以上で、完治する可能性が高いがんといえます。

予防には？

子宮頸がんは、ワクチンによる予防と定期的な検診による早期発見が可能です。

一方、子宮体がんは確実な予防の方法はありません。閉経後に不正出血があれば、速やかに診察を受けましょう。肥満気味の人や糖尿病のある人、更年期障害の改善のためにエストロゲン製剤を長期使用している人などは特に注意が必要です。



大道正英  
大阪医科大学教授

子宮頸がんは性体験の低年齢化、子宮体がんは食生活の欧米化や晩婚化などにより、いずれも増加傾向にあります。特に子宮頸がんは2年に1度は検診を受け、早期発見に努めてください。不正出血など異常があれば、ためらわずに病院に行ってください

の大道正英教授は「治療では確実にがんを治すことにも、体への負担を軽減すること、場合により妊娠できる可能性を残すことを考えます。近年では治療の選択肢が増えており、患者自身が治療内容を理解し、選ぶことが大切です」と話します。

\*「医なび」では、身近な病気の知識や治療の情報をお伝えします。  
科学医療部 ファクス06・6361・0521  
Eメール oykagaku@yomiuri.com